



各地からの便り



「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索

造林作業の省力化・軽労化の現地検討会を開催



【十勝東部森林管理署】

グラップルによる下刈のデモンストレーション

11月15日、十勝東部森林管理署本別町国有林で、十勝総合振興局、本別町、森林組合等の林業関係者及び当署職員50名が参加し、造林作業の省力化を目指した取組の現地検討会を開催しました。当署ではこれまで、伐採から造林までの一貫作業システムの導入やコンテナ苗の普及など、造林作業の担い手不足や造林事業量の増加に対応するため、造林作業の省力化や軽労化に取り組んでおり、今回は、重労働である下刈作業を大型機械にシフトすることにより林業の担い手不足を解消するための提案と軽量で逆回転が可能なコンテナ苗の電動穴掘機を披露しました。来年度以降も造林作業の省力化・軽労化につながる取組みを検証・提案するとともに、民有林への普及に向けて取り組んでいきたいと思っております。

名寄南小学校で今年度2回目の森林教室を開催



【上川北部森林管理署】

丁寧にドングリを植えました

11月20日、「遊々の森」協定を締結している名寄南小学校で3年生を対象とした森林教室を開催し「ドングリの苗木づくり」と「森林の働き」についての説明を行いました。ドングリの苗木づくりでは、ドングリをポリポットに植えてもらい、来年の3年生が森林教室で使うことを伝えると「いつ芽が出るの？」と質問があり、春に芽が出ることを伝えると、みんな丁寧にドングリを植えていました。その後、樹木が大きくなるのに何年かかるのかを確かめるため、輪切板にした木の年輪を数えてもらいました。また、「植えた木がどうなるの？」という質問には、昨年と一昨年の植栽木の写真で、徐々に木が大きくなっていることを説明しました。こども達に森林や樹木に対して関心を高めてもらえる森林教室となりました。

余市町関係職員に対する無人航空機（ドローン）講習会を開催



ドローンの操縦体験

【石狩森林管理署】

10月24日、無人航空機（ドローン）を活用しての森林資源把握講習会を余市町関係職員、北後志消防本部を対象に余市町総合体育館で開催しました。今回は、余市町から無人航空機の講習会実施の要請があり対応したものです。

改正航空法等の概要説明や留意事項及び北海道森林管理局での活用事例について座学を行い、操縦体験をしていただいたところ、大変好評で、参加者からは、「民有林の調査にドローンによる調査を活用させて欲しい」、「ドローンを購入した後も今回のような講習会をして欲しい」等のリクエストが寄せられました。

今後も自治体等の要請や民有林の撮影等の依頼に応えていきたいと思っております。

コンテナ苗現地検討会を開催！



コンテナ苗で低コスト化を検討

【檜山森林管理署】

渡島・檜山地域でも、造成された人工林が充実期を迎え、主伐再造林の大幅な増加が確実になっていますが、造林作業を担う技術者不足は年々深刻な状況で造林の低コスト化・軽労化の取組が重要です。

これらの課題解決の一方策として、11月6日、今年度「クリーンラーチコンテナ苗」を植栽した国有林で現地検討会を開催し、管内自治体、森林組合等の林業関係者、渡島地区種苗協議会、森林室等の道関係者、国有林関係者総勢52名が参加しました。検討会ではコンテナ苗のメリットとデメリット対策の紹介、裸苗との価格差が減少との情報提供、緩効性肥料の効果の紹介、専用の植付器具の使用体験などを実施しました。

低コスト化・軽労化の観点からコンテナ苗の特性を知ってもらう有意義な検討会となりました。

各地からの便り

エゾシカの立木食害等が天然更新等に与える影響調査地の現地検討会

【北海道森林管理局】

北海道森林管理局では、エゾシカの食害が天然林に与える影響を毎年調査しています。

令和元年度の影響調査は、上川南部署、十勝西部署、胆振東部署、後志署、網走南部署でエゾシカの立木食害等が天然更新等に与える影響調査検討会の委員を招いて実施しました。

調査箇所では、現地検討会を行っています。

今年度は、8月26～27日(上川南部署、十勝西部署)、9月12～13日(胆振東部署、後志署)に開催しました。

現地検討会では、同委員から、「角こすりは、オスが生息する証拠。樹皮はぎの発生数はシカの生息密度と必ずしも対応しないが、枯死木が発生しているということ

あれば、痕跡情報に基づいてその周辺で駆除対策に活用するとよい。」と痕跡から状況を判断する際の助言がありました。



角こすりの痕(トドマツ)

アオダモの萌芽枝の食痕を例に「食べられながらも少しずつ成長している。いつのタイミングで食べられていくかが分かり、駆除の方法のヒントになりうる。」などの説明を受けました。



何度も食べられたアオダモの萌芽枝

参加者からは、「現地検討会を行う意義が大きいと感

じた。調査に対する意識が変わるきっかけになる。」「見る目を養うことにつながる。簡易調査は継続が重要なので、引き続き積極的に取り組んでいきたい。」「結果が何に役立つのかがはっきりすると、継続にもつながる。」との意見が出されていました。



現地検討会の説明

北海道森林管理局では、この影響調査を全道で平成22年から実施しています。

エゾシカの調査でこのように大規模に継続して行われているものはなく、調査結果は研究者からも利用され、評価されています。

調査の詳細は、ホームページをご覧ください。



今月の表紙

「クリスマスイベントを開催」

11月18日、北海道森林管理局玄関ウッディホールにおいて「まつぼっくりに色をぬって木にかざろう」クリスマスイベントを開催しました。これは、地域の子どもたちに森林や林業に興味をもってもらい北海道森林管理局のことを知ってもらうために企画したものです。

まつぼっくりや木の板などの材料を使ってクリスマスツリーの飾りを作り、当局的入口の樹木に飾り付けをしてもらいました。

当日は近隣の小学生など約50名の方に参加していただき、にぎやかなイベントとなりました。

イベントでは国有林の多様で健全な森林づくりや治山事業、国民の森としてのレクリエーションの森やふれあいの森、優れた自然環境を守る取組などについて話を聞いてもらう時間もあり、北海道森林管理局のことを知っていただく良い機会にもなりました。



お知らせ

「北の国・森林づくり技術交流発表会」の開催について

北海道森林管理局では、令和2年2月18日、19日の2日間、北海道大学「学術交流会館」において、森林・林業に係る技術情報等の情報交換を図るため、「令和元年度北の国・森林づくり技術交流発表会」を開催することとし、森林づくり、森林環境教育を含め、森林・林業に関する取組活動についての発表を行います。

※詳しくは、北海道森林管理局HPをご覧ください。

もり
 広報 「北の森林 国有林」12月号
 発行 北海道森林管理局
 編集 総務企画部 企画課
 〒064-8537 札幌市中央区宮の森
 3条7丁目70番
 I P 電話 050-3160-6300
 電 話 011-622-5213
 F A X 011-622-5194
<http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>